

4月 諏訪研究室OBの小野澤清人氏らがアプリコンテスト「Yokohama Ups!」にて特別賞を受賞しました。

2014年3月27日（木）にはまぎんホール ヴィアマーレで開催された「共創フォーラム」にて「Yokohama Ups!」の表彰式が行われました。「Yokohama Ups!」は横浜の魅力を向上させるようなスマートフォンアプリのアプリコンテストです。このコンテストに、環境情報学部情報メディア学科諏訪研究室小野澤清人氏（2012年度卒）、渡邊圭輔氏（2012年度卒）、上野研究室の大野有佳里氏（2012年度卒）、清水研究室の真下豪氏（2012年度卒）、駒沢大学の竹内貴大氏（2012年度卒）の5人のチームが応募しました。応募したアプリは「HAMASUKU」というAndroid端末用のアプリです。審査の結果、アプリ開発部門でクラウドソーシングサービス「Job-Hub（ジョブハブ）」から「Jobhub賞」という特別賞を受賞しました。受賞したアプリは横浜を舞台にした体感型ロールプレイングゲームであり、実際に横浜の各名所を観光することでゲームを進めることができます。ゲーム内に出てくる可愛いキャラクター達と一緒に観光することで、ユーザの横浜観光をより良いものとする事が可能です。



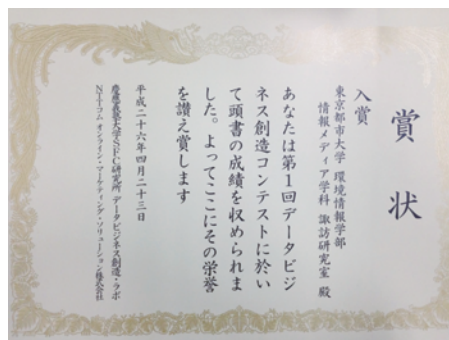
表彰式



賞状

4月 諏訪研究室4年の荻原崇氏らが「第一回データビジネス創造コンテスト」にて入賞しました。

環境情報学部情報メディア学科諏訪研究室4年生荻原崇氏、西脇陽介氏、下山泰伍氏の3名のチームがTwitter等のソーシャルデータを用いた分析活用のアイデア・サービスを競うコンテスト「データビジネス創造コンテスト」に応募しました。「就職活動の実態」、「離職率悪化の対策の追及」について、分析を行いました。審査の結果、分析タイトル「ネット上の口コミから就活生の本音を読み取る」が入賞し、4月23日（水）日経ホールにて「第一回データビジネス創造コンテスト」の表彰式が行われました。

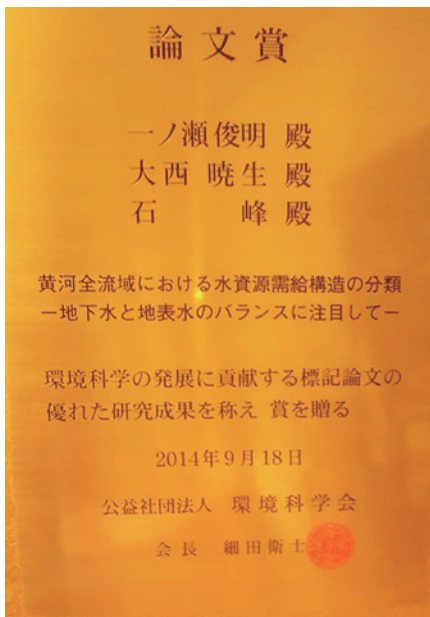


賞状



9月

環境学部の大西暁生准教授が公益社団法人環境科学会論文賞を受賞しました。



環境学部 環境創生学科 大西暁生准教授（他2名）が、2014年度の公益社団法人環境科学会論文賞を受賞しました。論文名は「一ノ瀬俊明，大西暁生，石峰：黄河全流域における水資源需給構造の分類—地下水と地表水のバランスに注目して—，環境科学会誌，Vol. 26，No. 2，pp. 167-179，2013.」であり，中国の黄河流域において，データが存在せず実態把握の困難であった当該流域における地表水の利用構造を分析したことにより表彰されています。

10月

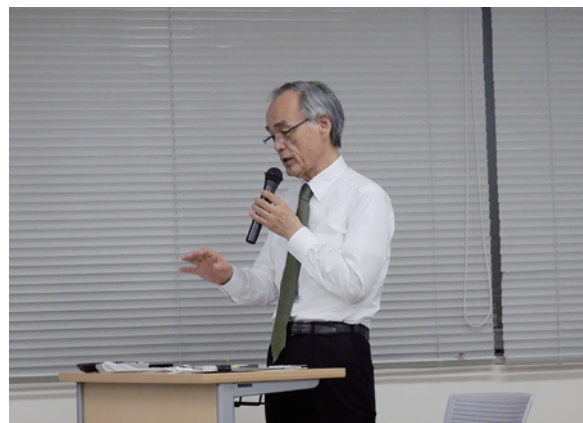
環境学部の後藤彰太君（他1名）が第32回全日本中国語スピーチコンテスト神奈川大会において受賞しました。

2014年10月13日，地球市民かながわプラザにて第32回全日本中国語スピーチコンテスト神奈川大会が開催され，朗読発表部門において，環境学部環境創生学科2年の後藤彰太さん（優秀賞），他1名が受賞しました。



10月 市民講座『メディアの現在』が計4回のプログラムを終え、無事終了しました。

2014年1月からスタートしたメディア情報学部主催の市民講座『メディアの現在』は、4月25日に第2回としてNHK解説委員鎌田靖氏の「2つの大震災を取材して」、7月14日の第3回は、文藝春秋新社長松井清人氏の「出版界のこれから、文藝春秋の挑戦」、10月3日の第4回は、元高知県知事でキャスターの橋本大二郎氏の「記者、知事、そしてキャスター～取材する側、される側、伝える側の真髓」の講演が行われ、1年間の予定を無事終了しました。



10月 メディア情報学部中村研究室が横浜市都筑区との共催で住民参加型イベントを開催しました。

メディア情報学部社会メディア学科中村研究室では、2014年10月11日、12日の両日、横浜市都筑区役所および地域のアーカイブ活動団体「つづきアーカイブクラブ」との共催で、住民参加型イベント「知っている？教えて！あなたのつづき 2014」を開催しました。都筑区の巨大地図の上に乗って、互いに地域の情報を書き込み合う「ガリバーマップ」や、横浜市都筑図書館の協力を得て学生が制作したクイズサイト「都筑クイズ」、地域の歴史的人物や少し前の人々の生活を紹介する「つづきゆかりの人々」「日々の灯り」のポスター展示、都筑区が住民主体で制作した都筑区の魅力紹介DVDの放映など、盛りだくさんの内容で、ガリバーマップに寄せられたポストイット投稿が400枚近くにのぼるなど、多くの住民が参加しました。都筑区が2014年に区制20周年を迎えたことから、同イベントは記念行事の一つにも位置づけられています。



関連サイト：つづき「街の記憶」プロジェクト
<http://tsuzuki-ac.sv.yc.tcu.ac.jp/>

10月 環境学部で第2回高校生環境活動グループ実践賞の表彰を実施しました。

環境学部では、高校生の環境保全にむけた取り組みを支援し普及することを目的に、グループでの実践的な活動を表彰するコンテストを昨年度から開催しています。2年目となる今年度も、たいへん充実した内容の応募を多数いただきました。

そのなかから、平成26年10月29日の環境ISOフォーラムにおいて、青森県の名久井農業高等学校TEAM FLORA PHOTONICSの活動実践を最優秀賞（環境学部長賞、環境創生学科賞）として表彰いたしました。この活動は、東日本大震災で大きな被害を受けた八戸市の種差海岸に自生する絶滅危惧植物サクラソウ群落を保全するための調査研究に関するものです。TEAM FLORA PHOTONICSと専門家や自治体との共同による調査研究から、この地域のサクラソウ群落は絶滅の危険性が高いクローン集団であり、受粉を担うマルハナバチが環境変化に伴って減少したことによってさらに危機的な状況に陥っていることが分かりました。そこで、TEAM FLORA PHOTONICSの高校生は、自分たちがマルハナバチとなり、遺伝的多様性を増加させるような人工授粉を行ってサクラソウ群落を保全しています。

そのほか優秀賞として、熊本県の鹿本農業高等学校バイオ工学科（環境マネジメント学科賞）、秋田県の大曲農業高等学校きのこ研究グループ（地域連携賞、東急不動産賞）、東京都の実践学園高等学校（学校実践賞、五島育英会賞）、新潟県の佐渡総合高等学校GIAHSプロジェクト（環境コミュニケーション賞、環境新聞社賞）の4校4グループのそれぞれ大変ユニークな活動に対しても授賞を行いました。

この賞を通じて、高校生の中に環境保全に向けた取り組みがますます広がっていくように願っています。

http://www.yc.tcu.ac.jp/envstudies/judge_2nd.html



12月

旧東海道を題材としたハッカソンでメディア情報学部上野研究室のチームが最優秀賞を受賞しました。

Code for Kanagawaなどが主催，神奈川県が後援するハッカソン・イベント「旧東海道再発見！アプリと歩こう～シビックテックが結ぶ宿場町～」のコンテストで，メディア情報学部社会メディア学科上野研究室3年生のチームが最優秀賞を受賞しました。本イベントは現在行政機関が保有する，旧東海道に関連する公開データを利用したアプリコンテストで，12月14日，横浜情報文化センターにて開催されました。神奈川県のオープンガバメント推進事業の企画の一つで，上野研究室チームではフィールドワークを通して，浮世絵や名所旧跡に関する文献研究やコンテンツ作りに取り組んできた成果が実りました。チームメンバーは渡邊慈征さん，中津野俊太さん，鈴木陽佳さん，岩崎直人さんです。

コンテストは，行政・地方自治体関係者・民間・大学・市民団体・地元エンジニアなどのメンバーから構成されるCode For Kanagawaが企画・運営を行い，アイデアソン・まちあるき・ハッカソンの一連のイベントの連続性の中で，7つのアプリが開発されています。神奈川県からは，今後，地方自治体を含めて積極的に協働して様々なデータを提供していき，市民にとって役に立つアプリケーションを市民目線で開発し，まちあるきなどに利用する中で健康増進などに繋げて取組みたいというコメントがありました。

